

# 群馬県レッドデータブック（植物編）改訂版の発刊について

## 1 改訂理由

本県のレッドデータブック※は2001年に初版（植物編）を発刊したが、その後行われた学術調査による情報の蓄積や、標本の整理等により得られた新たな知見等を踏まえて約11年ぶりの改訂を行い、2012年4月に改訂版を発刊した。

### ※ レッドデータブック

- ・絶滅のおそれのある野生生物を選定し、種毎にその危険性を評価した刊行物の通称。
- ・保護すべき野生生物を示す資料として、環境アセスメントなどの保護活動で利用されている。

## 2 改訂結果の概要

掲載種数：初版382種から、改訂版633種へと増加（約1.7倍）した。

初版(2001年)		改訂版(2012年)		改訂版の掲載種の一例			
評価 ※1	種数	評価 ※1	種数	種名	初版	改訂版	比較
絶滅	55	絶滅	53	コマクサ	希少	絶滅ⅠA類	悪化
		野生絶滅	2	オナモミ	指定なし	〃	〃
絶滅危惧	183	絶滅危惧	473	シラネアオイ	準絶滅	絶滅Ⅱ類	〃
Ⅰ類	157	ⅠA類	217	キキョウ	絶滅Ⅰ類	〃	改善
Ⅱ類	26	ⅠB類	134	フクジュソウ	絶滅Ⅰ類	〃	〃
準絶滅危惧	11	Ⅱ類	122	絶滅リスクの主な要因 ・湿地の富栄養化による乾燥・園芸採取・湿地開発・土地造成・管理放棄・外来種の競合や交雑・動物による食害			
希少	104	準絶滅危惧	46				
情報不足 ※2	29	情報不足 ※2	59				
計	382	計	633				

※1 評価基準については、初版では県独自の基準、改訂版では環境省レッドデータブックの基準を準用したため、評価の区分に差異がある。

※2 評価するだけの情報が不足している種。

## 3 掲載種数が増加した主な理由

- (1) 学術調査等による情報の蓄積や、標本整理等のデータベースの充実により**実態把握**が進んだこと。
- (2) ①農地や里山の管理放棄、②動物による食害、③外来種との競合、④インターネットによる生育地情報の拡大など、**新たな絶滅要因**が進行したこと。
- (3) 前回の県独自基準による評価から、より指定基準の広い国基準を準用した評価に変更したため。

## 4 閲覧場所及び 有償頒布

公立図書館や大学、高等学校の図書館で閲覧していただけます。

また、1冊3,900円で、群馬県庁2階県民センター（電話：027-226-2264）で有償頒布しています。郵送でも対応しています。

## 5 問い合わせ

群馬県環境森林部自然環境課 〒371-8570 前橋市大手町1-1-1

電話：027-226-2872 FAX：027-243-7702 Eメール：kanshizen@pref.gunma.lg.jp

# 群馬県レッドデータブック（動物編）改訂版の発刊について

## 1 改訂理由

本県のレッドデータブック※は2002年に初版（動物編）を発刊したが、その後行われた学術調査等により得られた新たな知見等を踏まえて約11年ぶりの改訂を行い、2012年12月に改訂版を発刊した。

### ※ レッドデータブック

- ・絶滅のおそれのある野生生物を選定し、種毎にその危険性を評価した刊行物の通称。
- ・保護すべき野生生物を示す資料として、環境アセスメントなどの保護活動で利用されている。

## 2 改訂結果の概要

(1) 掲載種数：529種 【初版(2002年)：526種】

### (2) 掲載内容の変化

- ① 初版に掲載した526種のうち、評価の変更が無かったものが208種（40%）。
- ② " " 今回の対象から除外したものが139種（26%）。
- ③ 今回、新たに追加したものが142種（27%）。
- ④ 今回、評価を変更したものが179種（34%）《改善120種・悪化59種》。

初版 526種	変更なし 208種	評価変更 179種	除外 139種
↓			
改訂版 529種	変更なし 208種	改善 120種	悪化 59種
		新規 142種	

### (3) 評価結果の比較

初版(2002年)	
評価	種数
絶滅	19
絶滅危惧	231
I類	124
II類	107
準絶滅危惧	134
注目	137
地域個体群	5
計	526

改訂版(2012年)	
評価	種数
絶滅	9
野生絶滅	0
絶滅危惧	175
I類	85
II類	90
準絶滅危惧	136
情報不足	209
計	529

改訂版の特記事項
(1) 新たに「絶滅」と評価されたもの 魚類3種(タナゴ、アカヒレタビラ、ムサシトミヨ)
(2) 代表的な評価の変更例 ①ウナギ（掲載なし→絶滅危惧II類） →稚魚の漁獲量が減少しているため ②サワガニ（準絶滅危惧→対象外） →農薬の減少や水質改善のため ③ムササビ（注目→準絶滅危惧） →開発や伐採で生息環境が悪化したため ④ツキノワグマ、アナグマ、カモシカ （注目→情報不足） →評価の変更なし

- ・初版は県独自基準、改訂版は環境省基準に準拠。
- ・「注目」と「情報不足」は、評価するだけの情報が不足。
- ・「地域個体群」とは、生息域が孤立し絶滅の危険が高いもの。

### (4) 評価

- ① 学術調査等により実態把握が進んだことで、「絶滅」や「絶滅危惧」と評価できる要件が揃わなくなった種については、「情報不足」へと評価を見直した。
- ② 絶滅の主たる要因は、開発行為、除草等による生息環境の急変、伐採・植林、農薬等汚染などである。

この中で、近年深刻になりつつある要因としては、農地や里山の放置による動物の生息環境の悪化、物流の拡大による外来種の侵入の危険性の高まりがあげられる。

## 3 閲覧場所及び 有償頒布

公立図書館や大学、高等学校の図書館で閲覧していただけます。

また、1冊3,100円で、群馬県庁2階県民センター（電話：027-226-2264）で有償頒布しています。郵送でも対応しています。

## 4 問い合わせ

群馬県環境森林部自然環境課 〒371-8570 前橋市大手町1-1-1  
電話：027-226-2872 FAX：027-243-7702 Eメール：kanshizen@pref.gunma.lg.jp<sub>62</sub>